



# 魚病の発生予防と拡大防止対策

魚類へい死事故の発生時の原因究明や水産業支援のため、魚病診断や魚類感染症のまん延防止措置の指導、魚病病原体のモニタリング調査を行っています。

## 魚類へい死事故（異常水質事故）への対応



魚類へい死現場のようす

- 魚類へい死や有害物質の流出、水の着色、油膜が認められる状況を異常水質事故といいます。
- 魚類へい死事故とは、河川等において魚類などが大量にへい死している状況を示し、水中の酸素欠乏（酸欠）や魚の病気、有害物質の流入、水質の異常などによって起こります。

## 特定疾病コイヘルペスウイルス病をはじめとした魚病発生への対応

- 魚の病気の中でも、外国で大きな被害をもたらしているものや、国内で発生して被害をもたらす病気は、法律によって**特定疾病**に指定されていて、事業者、個人に関わらず**まん延防止**の措置をとらなくてはなりません。
- 特定疾病の代表的なものとして、コイヘルペスウイルス（KHV）病があります。死亡したコイにKHV病の疑いがある場合、迅速にPCR検査を行うとともに、大阪府水産課と現地確認や消毒指導を行うなどして、まん延防止に努めています。
- 水産対象魚種へ被害を及ぼす可能性のある疾病（冷水病、コイ春ウイルス血症など）については、放流用種苗や養魚場での発生監視を行うとともに、漁業協同組合やため池養殖事業者へ魚病発生や感染対策に関する最新の情報提供を定期的に行うことで、魚病の発生やまん延を防いでいます。



コイヘルペスウイルス病によって死亡したコイ

### コイヘルペスウイルス病の特徴

- コイのみに感染
- 水温20～25℃程度で発症
- エラの退色や、びらん、眼球の落ち込み等がみられ、大量へい死を引き起こす